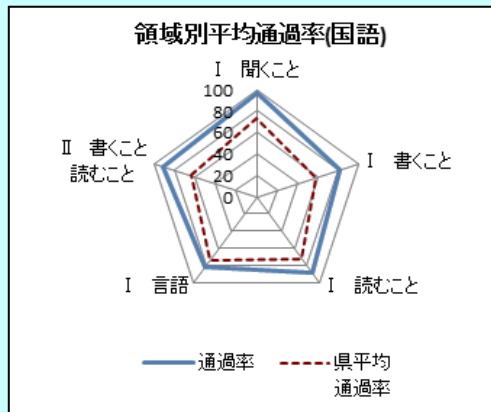
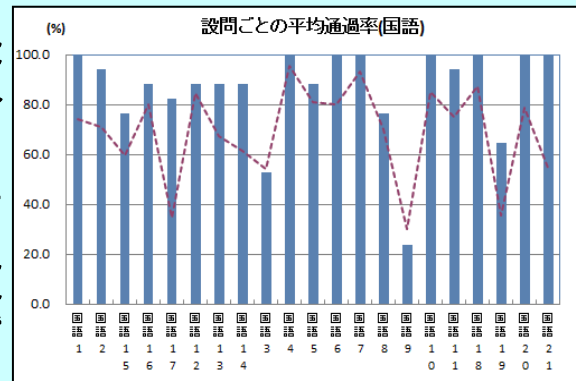


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校86.0%, 県69.2%)

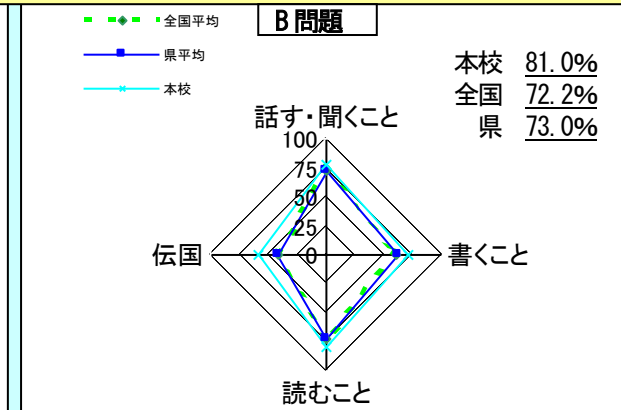
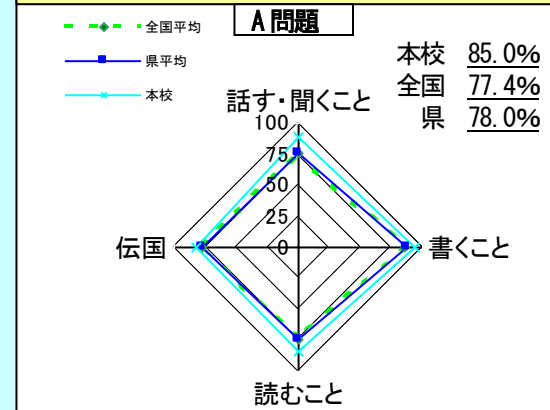
領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎事象や行為などを表す多様な語句を用いて表現することができない。(正答「ひとえに」を選ぶことができない。)(正答率 52.9%)
- ◎漢字の書き取り「始動」が書けない。(正答率 23.5%)
- ◎要旨を字数に合わせて書けない。(正答率 64.7%)
- ◇相手に分かるように語句を選択して話す。(正答率 70.8%)
- ◇比喻を用いた表現の仕方に着目し、自分の考えを書く。(58.8%)
- ◇相手の反応を見ながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す。(47.5%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- ◎副詞に関する語彙力をつける授業を仕組む。また、授業の中で語彙に広がりを持たせる活動を仕組む。
- ◎同音異義語の存在に注意させ、前後の文脈から正しい漢字を類させる練習を行う。
- ◎重要な語句について線を引くことができる活動に加えて、文全体を見通し、提示された字数で文章をまとめる練習を行う。
- ◇問われている内容を理解して話をする活動を行う。
- ◇表現の特徴について、その効果を読み取り、その表現の仕方についての自分の意見を持たせる活動を行う。
- ◇相手を意識して、相手に分かりやすく伝えるためにどのような工夫をするといいか考え、推敲して表現する取組を行う。
- ※ 文章、図表、グラフなどを用いて必要な情報を読み取る活動、そこから条件に合わせて要約文や、自分の意見を組み立て、分かりやすく相手に伝える活動に取り組む。

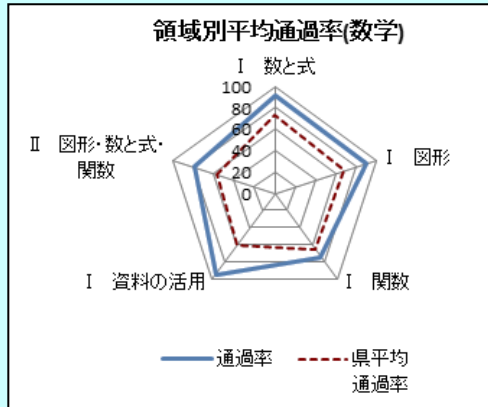
◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間テスト		2年生期末テスト		1年生H29「基礎・基本」	1・2年生学年末テスト
目標値		65%		70%		60%	1年生 70% 2年生 75%
実施後数値							

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年生中間テスト			3年生学年末テスト		2年生学年末テスト
目標値		65%			80%		70%
実施後数値							

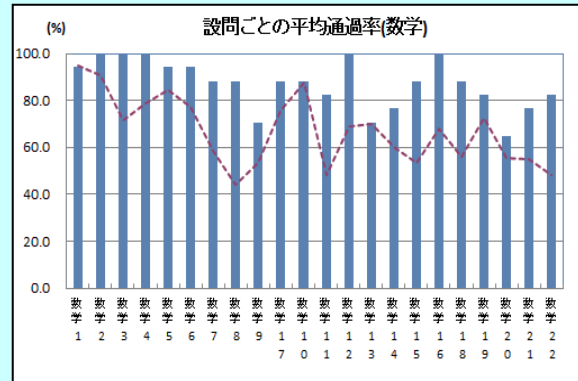
来年度に向けて

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校87.2%, 県66.9%)

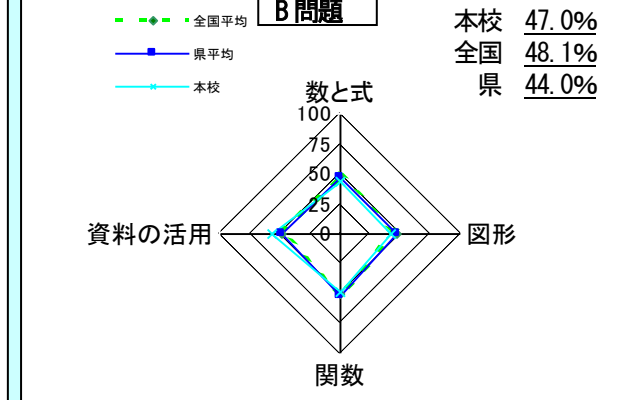
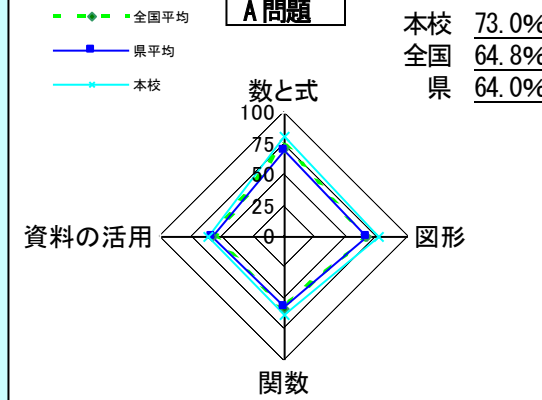
領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ タイプIIの事象の解釈と表現について、数量の関係を表す式をもとに、一方の数量の変化に伴いもう一方の変化の様子を考慮することができていない。(通過率 64.7%)
- ◇ 数学Aにおいて、資料から記録の範囲を求めることができておらず、資料の活用における用語の意味が理解できていない。(正答率 23.5%)
- ◇ 数学Bにおいて、2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができていない。(正答率 0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ もとになる式や公式など、数量の関係を表す式について、数量の変化を意識して式を読み取ったり、一方の数量の変化に伴いもう一方がどう変化するかを考慮の問題を折に触れ取り入れる。
- ◇ ともなって変化する2つの数量について考えさせ、関数の定義や意味を理解させる場面を多く持つ。
- ◇ 図形の学習では、具体物などを使った操作活動を多く取り入れ、定着を図るとともに、数学用語を用いた表現で互いに説明し合う活動を取り入れる。
- ※ 小中一貫した取組については、小グループで自分の考えを式や図、グラフを使って説明する活動を取り入れる。

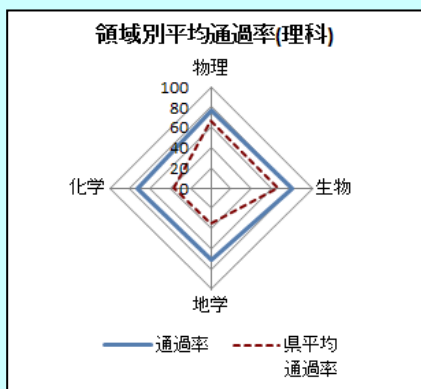
◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年中間テスト		2年期末テスト		1年基礎基本	1・2年学年末テスト
目標値		70%		70%		60%	70%
実施後数値							

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年中間テスト			3年学年末テスト	2年学年末テスト	
目標値		65%			70%	70%	
実施後数値							

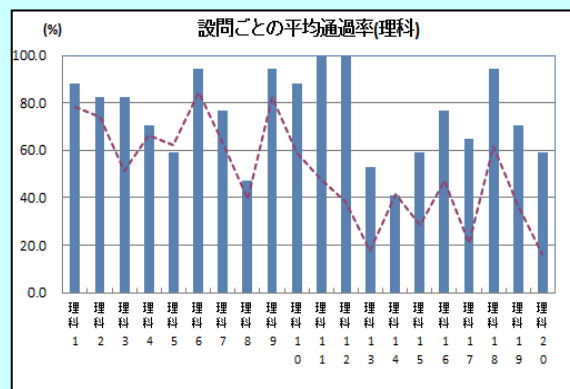
来年度に向けて

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校75.0%, 県50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ ① 植物の呼吸を調べる実験の条件制御の通過率は47.1%だった。誤答した生徒の多くは光合成で酸素が作られることを確かめる対照実験を選択しており、実験の趣旨を理解した条件制御を行えていない。
- ◎ ② 砂岩と判定する根拠の通過率は52.9%だった。ほとんどの生徒が砂岩と判定していたが、誤答した生徒の多くは、堆積岩の根拠となる「粒の角が丸くなっている」ことを判定理由に挙げるができなかった。
- ◎ ③ 地層が堆積した年代を推定することができる化石を「示準化石」と正しく答えられた生徒の通過率は41.2%で、誤答した生徒のほとんどが「示相化石」と解答していた。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ ① 実験を行う際には、「何を明らかにするための操作なのか」を確認し、条件制御を意識させる。また実験によっては生徒に実験計画をたてさせ、「何を明らかにするための対照実験なのか」を意識させる。
- ◎ ② 既習事項を関連付けて考えさせる場面を多くもち、特に小学校時での学習内容も意図的に用いることで中学校での学習内容の定着を図る。
- ◎ ③ 基礎的な内容の定着が不十分である。ドリル学習を積み重ねることで学習内容の定着を行う。
※ 小中一貫した取組については、理科で実験を行うときは、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てて行う機会を持つようにする。

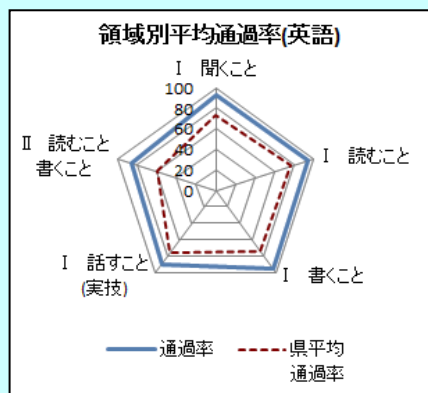
◎①「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年・H29 「基礎・基本」		2年・H29 「基礎・基本」	1年・H29 「基礎・基本」		1年・H29 「基礎・基本」
目標値		85%		100%	50%		80%
実施後数値							

◎②「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年・H29 「基礎・基本」		2年・H29 「基礎・基本」	1年・H29 「基礎・基本」		1年・H29 「基礎・基本」
目標値		85%		100%	70%		90%
実施後数値							

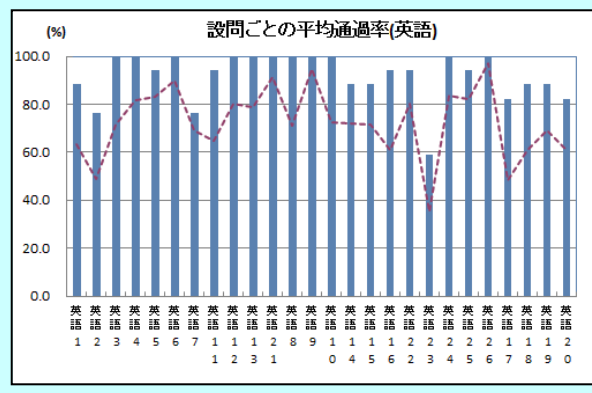
来年度に向けて

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校91.9%, 県72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

- ◎ ① 会話の聞き取りにおいて、場面状況を考えて答えていない。
(通過率 76.5%)
- ◎ ② 質問を正しく聞き取ることができない。
(通過率 58.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ ① 英語検定等の聞き取り問題に取り組み、自然な会話の流れを意識する機会を増やす。
- ◎ ② ディクテーション練習を段階的に行い、詳細の聞き取りを強化する。
- ※ 小学校から質疑応答を行う。

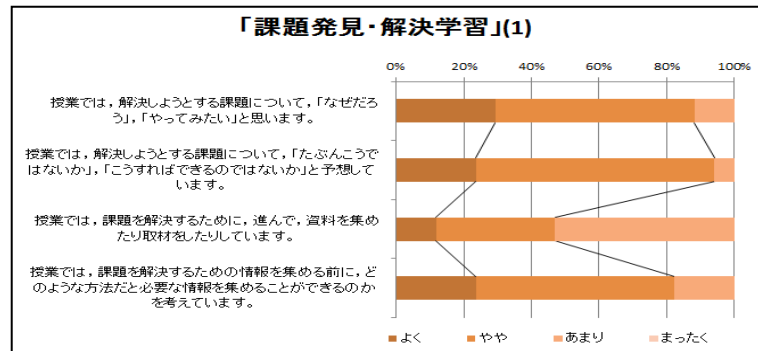
◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H29 「基礎・基本」			2年生 H28 「基礎・基本」	1年生 H28 「基礎・基本」		1年生 H29 「基礎・基本」
目標値	85%			90%	60%		70%
実施後数値							

◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H29 「基礎・基本」			2年生 H28 「基礎・基本」	1年生 H28 「基礎・基本」		1年生 H29 「基礎・基本」
目標値	80%			90%	60%		70%
実施後数値							

来年度に向けて

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）

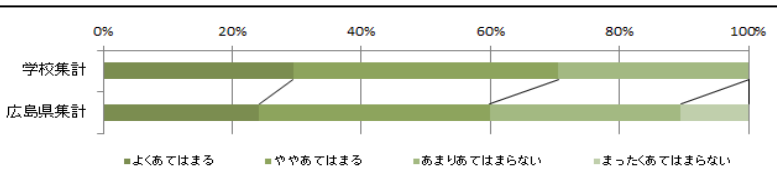
(1) 生活・学習



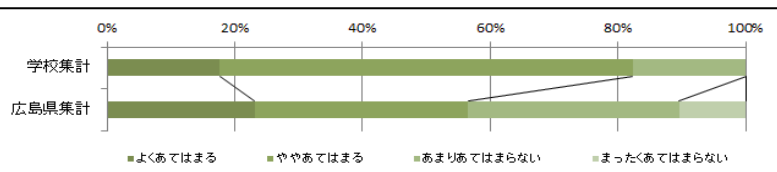
	生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	授業では課題を解決するために進んで資料を集めたり、取材をしたりしているが、47.1%となっている。	学校生活の中で個々に主体的な活動の場面を与え、進んで課題を解決していく能力を育てていく。	2	100%	生徒アンケート	12月		
全国	本を読んだり、借りたりするために図書室や図書館を利用している (5.9%)	課題を解決していくための情報収集として、図書室を活用した授業を各教科で計画する。	3	50%	生徒アンケート	12月		

(2) 教科

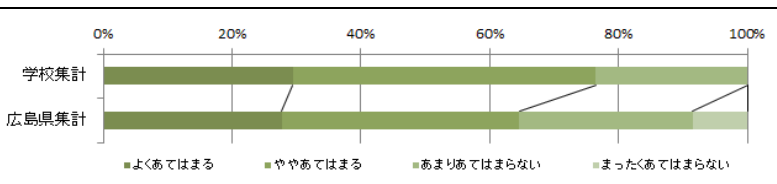
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



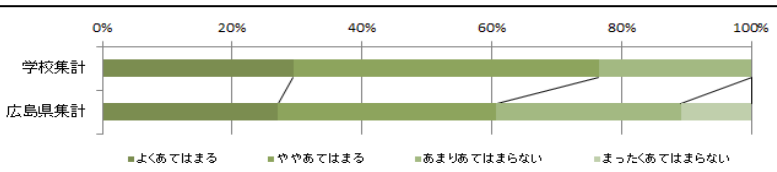
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本 授業で学習した語句や物事の考え方など、普段の生活の中で活用場面が少ない。(肯定的評価が70%)	実生活に即した場面設定を行った授業を組み立てたり、他のどんな場面で使えるかを考えたりする活動を取り入れる。	2	80%	生徒アンケート	12月		
	全国 授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いているか、否定的評価35.3%	理由を付けて書いてはいるが、相手に分かるように気を付けている、という視点を付けて書かせるように意識させる。	3	80%	生徒アンケート	12月		
数学	基礎・基本 解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明することが不十分である。(肯定的評価が82.4%)	問題をどう解き方をすればよいかを小グループで話し合ったり、その方法の良さを理由をあげて説明し合ったりする活動を取り入れる。	2	90%	生徒アンケート	12月		
	全国 学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えることがあまりできていない。(否定的評価41.2%)	授業において、この学習が何に生かされているかを紹介したり、考えさせたりするなど、数学が身近なものであることを意識させる。	3	90%	生徒アンケート	12月		
理科	基礎・基本 理科の実験を行うとき、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てて行うことが不十分である。(肯定的評価が76.5%)	実験を行う際に、「何を明らかにするための操作なのか」を確認し、結果を予想させる。また実験によっては生徒に計画をたてさせ、対照実験を意識させる。	2	85%	生徒アンケート	12月		
英語	基礎・基本 ペア活動が自分のことを話す機会であることを意識させる必要がある。(肯定的評価76.5%)	ペア活動等で自分のことを話す機会を毎時間設定しているが、表現力の上で自信をもてるように工夫する。	2	85%	生徒アンケート	12月		